科目名	開講時期	開講学年	必/選	1単位（45h）
助産学実習Ⅱ	通年	4年		

担当教員名	電子メール	オフィスアワー
◎黒﨑治美・湯舟邦子	Harumi.kurosaki@tohto.ac.jp	適宜（メールにて事前連絡）

授業の概要

助産学実習において、分娩介助1例目および妊娠期からの対象をそれぞれ1例受け持ち、産後1ヶ月健診まで継続的に助産 過程を展開し、保健指導を含めた助産ケアの実施と評価を行う。

キーワード	到達目標
継続事例 保健指導 助産過程の展開 受胎調節指導	1.継続事例を通して、母子の健康診査に基づく助産診断など一連の助産過程を展開し、対象への助産ケア・保健指導を実 施・評価できる。 2.分娩介助した継続事例の産後の受胎調節指導と評価ができる。

授業の計画・形式

第1週	実習に関する具体的な内容は、助産学実習手引き を参照のこと。
第2週	以下、第1回目記載に同じ。

教科書、参考書

教科書	
参考書	日本助産診断・実践研究会編：マタニティ看護診断ガイドブック第 5 版,医学書院,2015 助産学講座 テキスト 5～8,医学書院 講義で学んだ全ての授業資料、テキスト

受講要件

助産師課程の専攻学生で、助産師課程の必修科目・選択科目のうち 4 年前期までの科目を履修した学生

成績評価

本試験（実践）	小テスト（分娩介助実技試験）	レポート	成果発表（口頭・演習）	その他	合計
70%	10%	20%	0%	0%	100%

担当教員からのメッセージ

長期間におよぶ実習であり、忍耐や体力・知力を求められる。自己の体調管理には十分留意し、自らの目的意識を持続し実りある実習となるように、心身ともにしっかりと準備をして臨んで下さい。